

異常巻アンモナイト ニッポニテス



Gaudryceras striatum (Jimbo)
GSJ F04880

Nipponites mirabilis Yabe
GSJ F09094

2018年6月、日本古生物学会が、10月15日を「化石の日」と決めました。これは、日本を代表する化石のひとつである異常巻アンモナイトのニッポニテス (*Nipponites mirabilis* Yabe: 左の写真) の新種記載論文の発行日が、1904年(明治37年)10月15日であることに由来します。

みなさんは、アンモナイトの殻といえば、右の写真 (*Gaudryceras*) のようにぐるぐる巻いているイメージをお持ちでしょう。このような巻き方のアンモナイトを「正常巻アンモナイト」、それ以外を「異常巻アンモナイト」と総称します。

当時、東京帝国大学の大学院生であった矢部長克^{やべ ひさかつ} 理学士(後の東北帝国大学名誉教授)は、北海道の白亜紀の地層から見つかったこの化石を、異常巻アンモナイトの新種として論文発表しました(Yabe, 1904)。しかし、専門家からは、いくらなんでもこの形は異常すぎる、これは奇形の個体であって新種ではなく、二つめは見つからないに違いない、と批判されました。ところが!発表から20年以上経って、全く同じ巻き方の化石が見つかりました。矢部の慧眼^{けいがん}は、ニッポニテスが奇形ではないことを見抜いていたのです。その後の研究で、この殻の形は数式で表現できる、規則的なものであることが解明されています(岡本, 1984など)。ニッポニテスは、この巻き方が適する暮らしぶりをしていただのでしょう。それは、海底のすぐ上に浮いているような生態だったのではないかと考えられています。

ニッポニテスの学名は、日本の(Nippon) + 石(-ites) + 驚きの/素晴らしい(mirabilis)という意味を持っています。矢部は最初からわかっていたのでしょうか。ニッポニテスは、日本を代表する化石として、海外にも広く知られる存在となりました。

Yabe, H. (1904) *Journal of the College of Science, Imperial University of Tokyo*, vol. 20, art. 2, p. 1-45.

岡本 隆(1984) 化石, no. 36, p. 37-50.

(地質標本館室 兼子尚知)